

I 調査の概要

1. 目的

義務教育修了後の発達障害者が抱える困りごとは教育、就労、生活等多岐にわたり、県内の各関係機関がそのニーズに対応しながら支援を行っていると考えられる。

本調査において、関係機関における支援の状況、支援をする上での機関としての困りごと、機関へのバックアップ等の実態把握を行い、発達障害者支援センター運営事業および発達障害者地域支援体制整備事業において、県内の支援者及び関係機関への取り組みに反映させるものである。

2. 実施主体

香川県健康福祉部障害福祉課
香川県発達障害者支援センター『アルプスかがわ』

3. 調査対象

行政、福祉、教育、司法、労働など県内関係機関(799機関)

4. 配布期間

10月20日前後～11月8日(締切)

5. 配布方法

郵送、メール等

6. 回答方法

紙面回答、インターネット回答

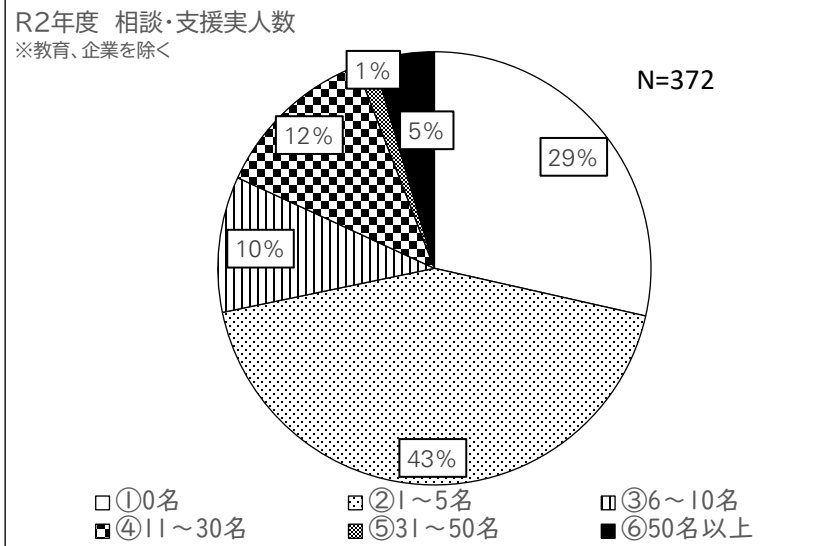
II 回答率

54.3%(回答数434機関)

	回答	対象数	回答率
市町障害福祉担当課	15	17	88.2%
労働	9	9	100.0%
就労	5	5	100.0%
相談(基幹・委託)	27	29	93.1%
県機関	8	8	100.0%
児相・家庭	15	20	75.0%
司法相談	2	3	66.7%
社協	17	42	40.5%
相談(指定)	26	53	49.1%
障害サービス提供事業所	194	398	48.7%
児童福祉入所	8	9	88.9%
教育	54	102	52.9%
生活保護	11	21	52.4%
高齢	14	23	60.9%
矯正	2	4	50.0%
警察	17	40	42.5%
国(司法)	2	12	16.7%
職業訓練・サポステ	0	3	0.0%
企業	8	1	—

Ⅲ 結果

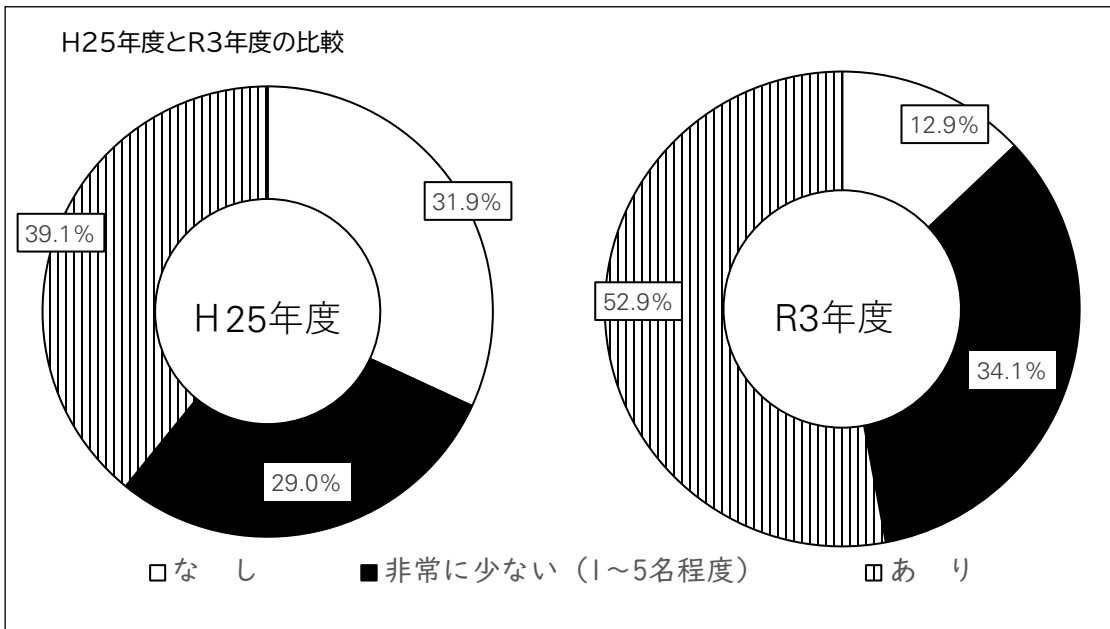
1. 機関における発達障害者支援の状況について



R2年度においては、全体の29%が支援等の実績が0と回答。43%の機関が1～5名と若干数の支援を行っていた。11名以上の支援実績があると回答した機関は全体の11名以上と回答しており、その中でも全体の5%の期間は、50名以上の支援実績があると回答。

50名以上の支援実績があると回答した機関種別は、市町障害福祉担当課、就労支援機関、相談支援機関、警察等であった。

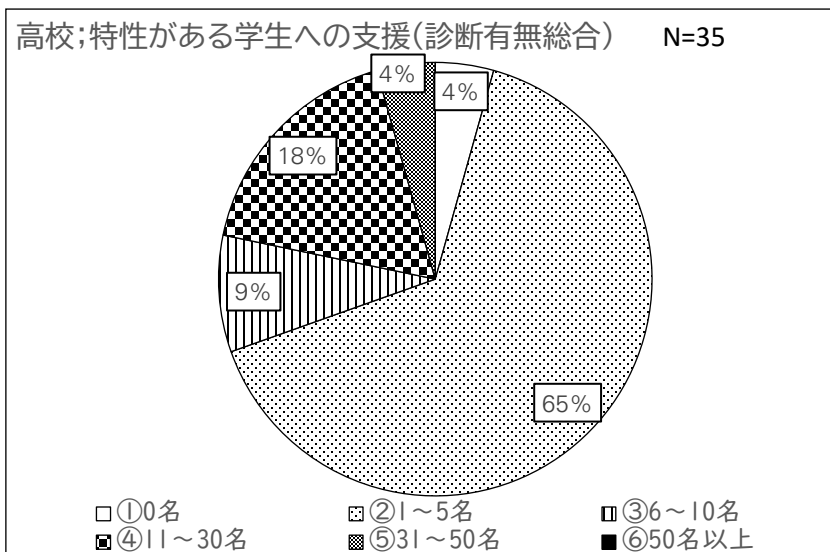
<参考>平成25年度調査との比較



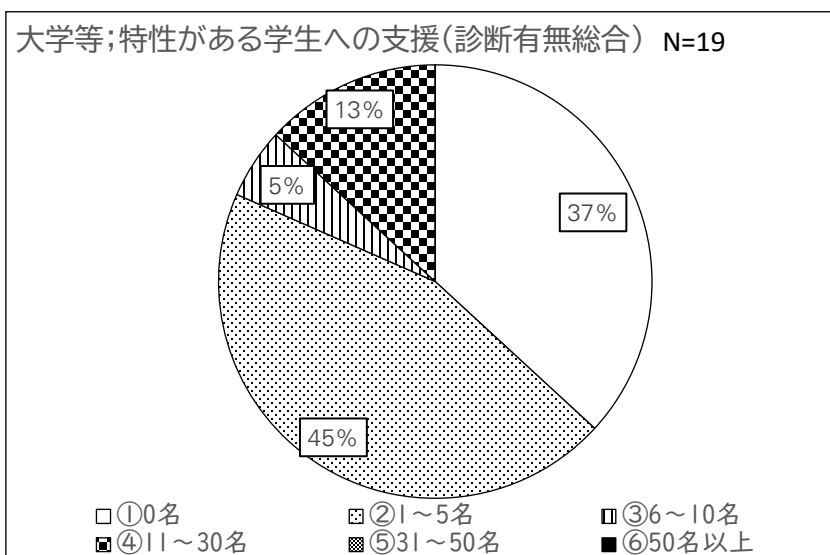
H25年度の調査対象(市町障害福祉担当課、相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等)のみを抽出し、H25年度調査結果との比較したものが上のグラフである。

「なし」と回答した機関は、31.9%から12.9%に減少し、6名以上と回答した機関が39.1%から52.9%と増加した。

※教育(高校、大学等)における支援の状況



診断有無に関わらず、特性がある学生への支援を実施している高校は、96%であった。その内、11名~30名を実施している高校が18%、31名~50名の学生への支援を実施した機関が4%であった。



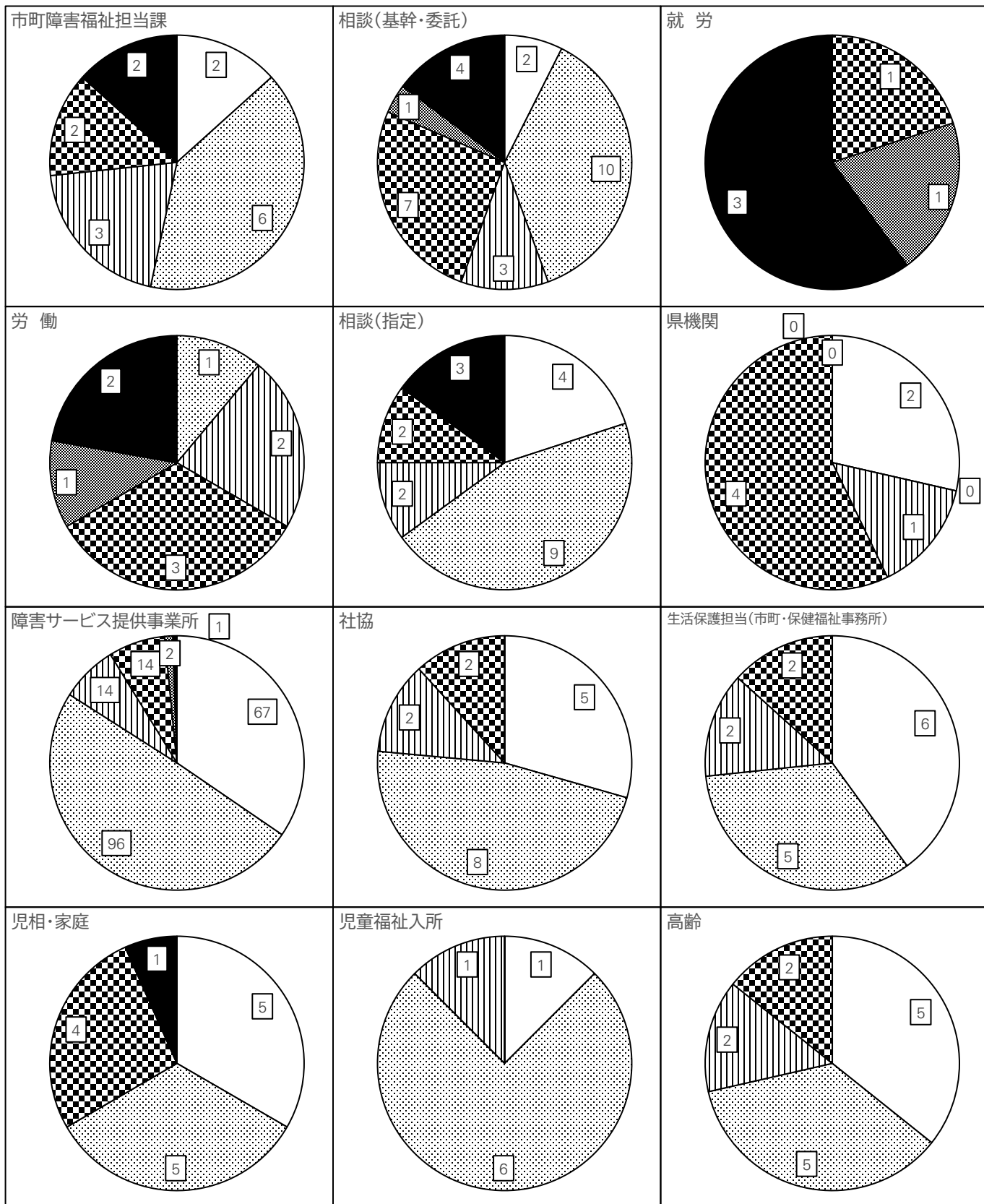
診断有無に関わらず、特性がある学生への支援を実施している大学等は63%であった。その内、11名~30名の学生への支援を実施した機関が13%であった。

殆どどの高校においては、発達障害特性がある学生への支援を行っていた。1~5名と回答した機関が全体の65%である一方で、11名以上の学生を支援している高校がある点から、特性の把握については、高校によってバラツキがあると考えられる。

大学等においては、支援実績がないと回答した大学等が37%とあり、各機関において支援状況の差が生じている状況がある。

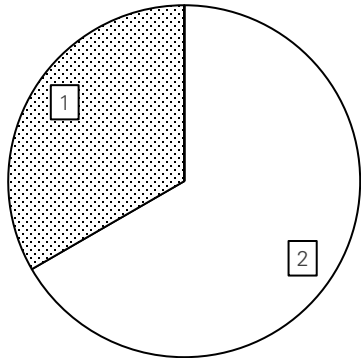
※機関別支援実人数

□ ①0名 ▨ ②1~5名 ▩ ③6~10名 ▪ ④11~30名 ▣ ⑤31~50名 ■ ⑥50名以上

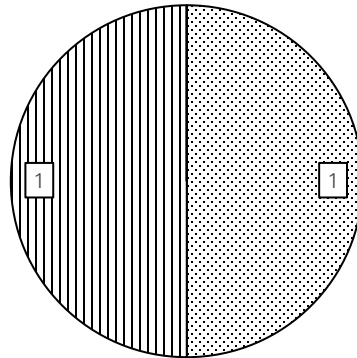


□ ①0名 ▨ ②1~5名 ▩ ③6~10名 ▩ ④11~30名 ▨ ⑤31~50名 ■ ⑥50名以上

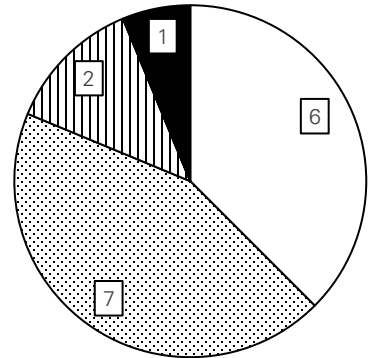
国(司法)



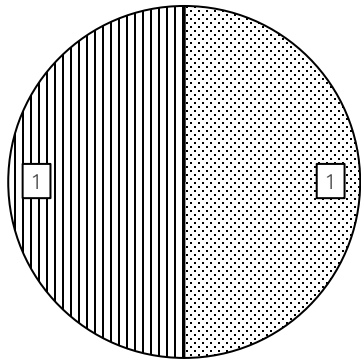
矯正施設



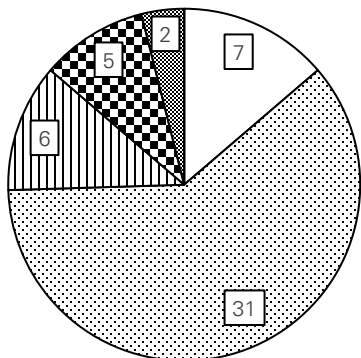
警察



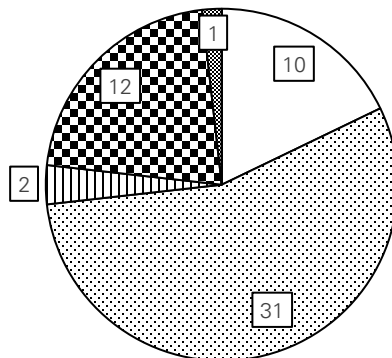
司法相談



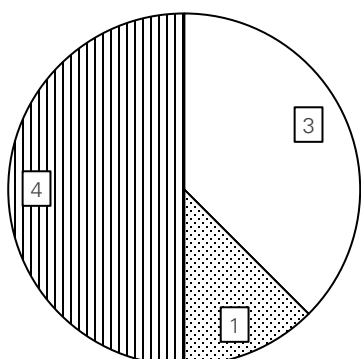
教育(高校・大学)診断有の学生への支援



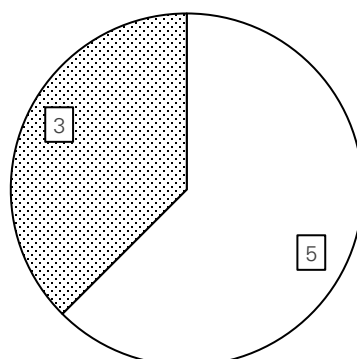
教育(高校・大学)未診断・診断有無不明の学生への支援



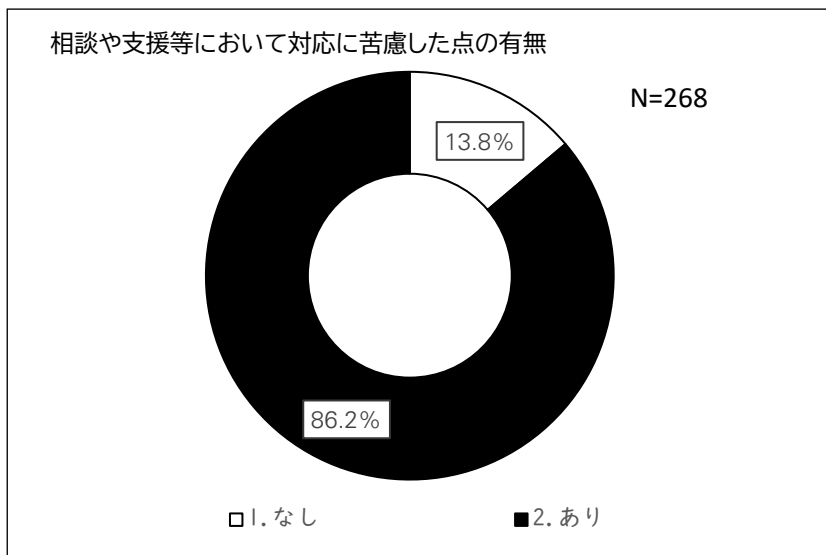
企業(発達障害者の雇用率)



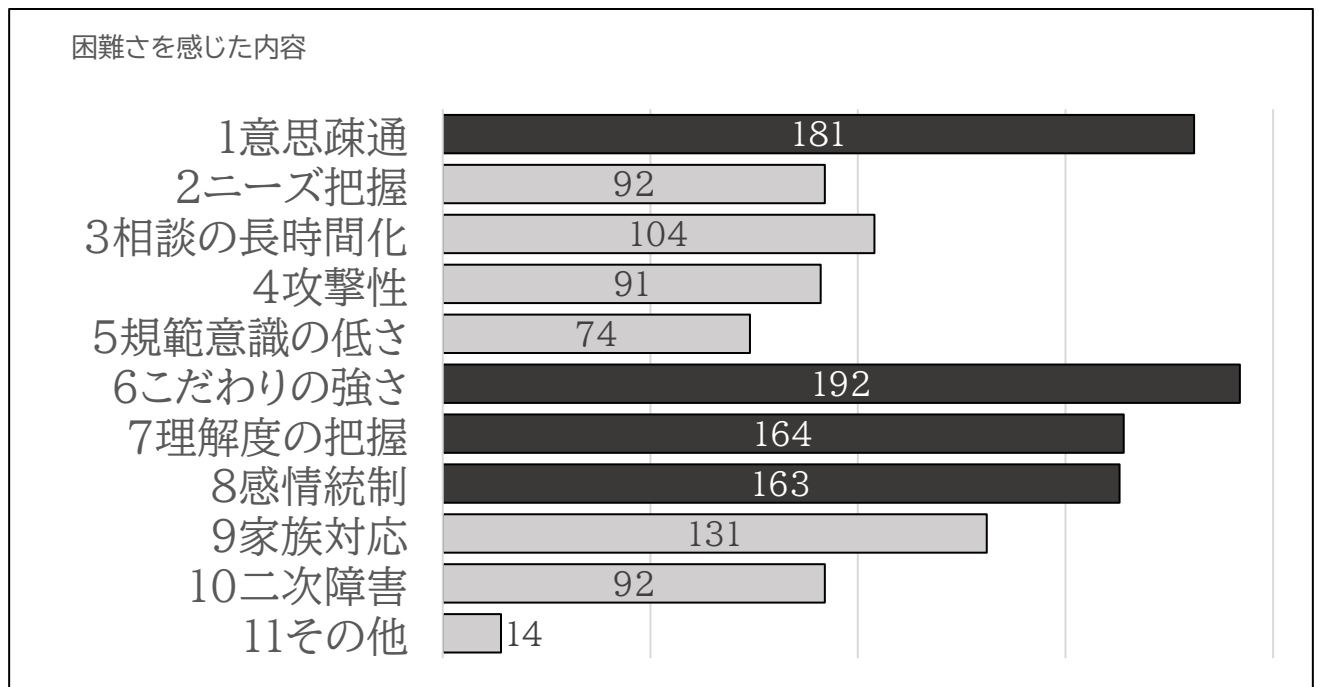
企業(特性あり診断不明及び診断無の社員の有無)



2. 相談や支援等において、対応に苦慮した点の有無



支援実績がある機関の内、86.2%が対応に苦慮したことがあると回答した。

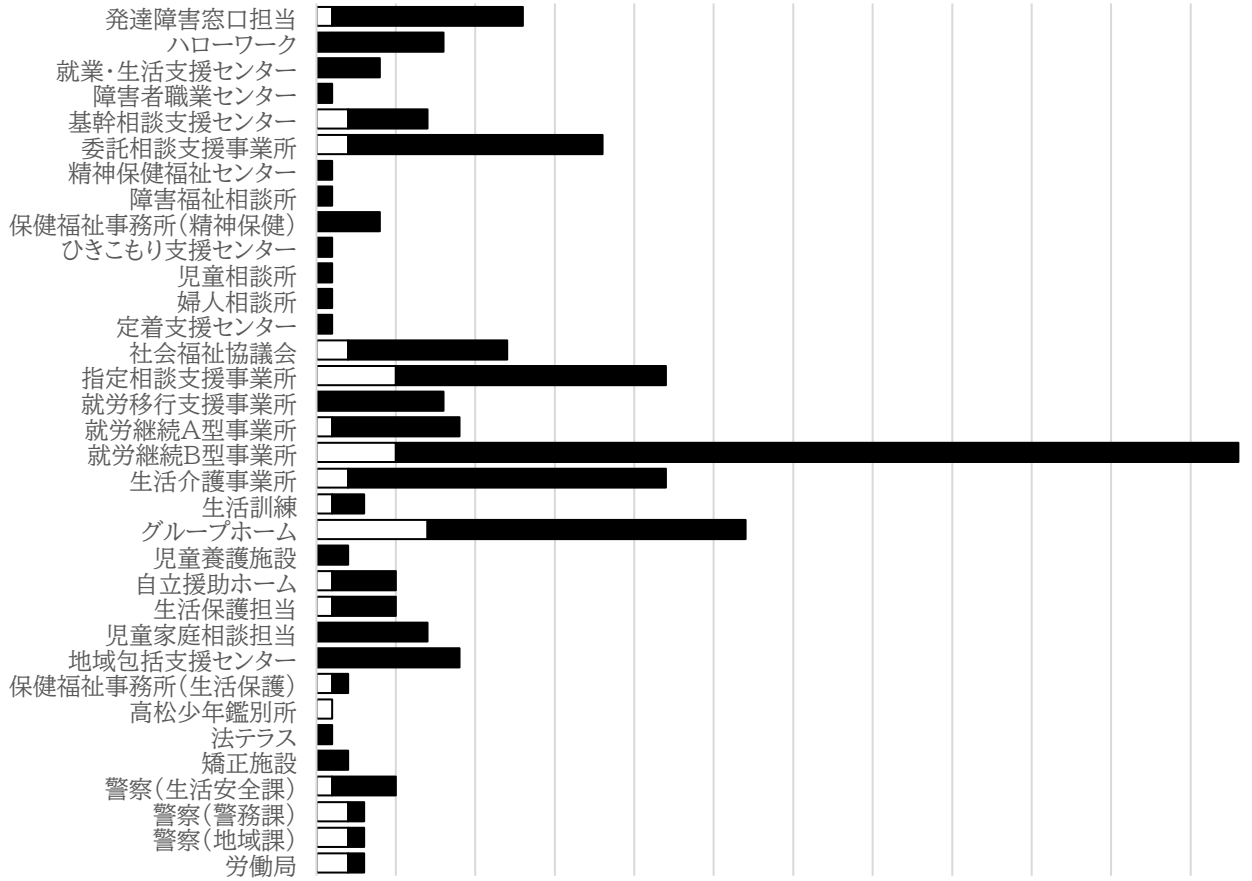


困難さを感じるキーワードとして、「意思疎通」「こだわり」「理解度」「感情統制」が上位であり、発達障害特性の本質的な言動などへの対応に苦慮している結果となった。

相談や支援等において対応に苦慮した点の有無

□①なし ■②あり

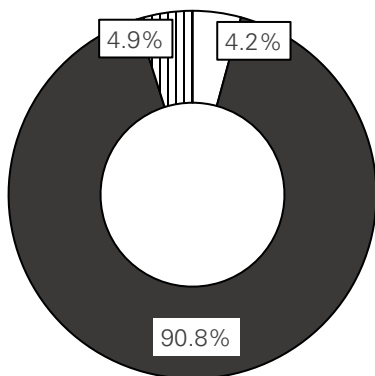
0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60



3. 対応に難しさを感じた際の機関における対応

対応が困難な際の対応策の有無

N=232



- 1. 特になにもしていない
- 2. 機関内でのケース会議等や外部機関に相談
- ▣ 3. その他

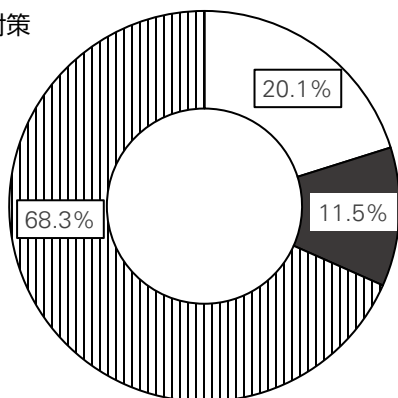
対応に困難さを感じた際には、9割超の機関が何らかの対応を行っていた。

対策を講じている機関の68.3%は、機関内ケース会議、外部機関への相談などを実施している一方で、2割程度の機関が機関内のみで困りごとを抱えている状況、また11.5%の機関においては、機関内でのケース会議などが行われないまま、外部機関に相談している状況であることがわかった。

相談先として利用している外部機関は「相談支援事業所」「市町障害福祉課」「医療機関」「アルプスかがわ」が上位を占めた。

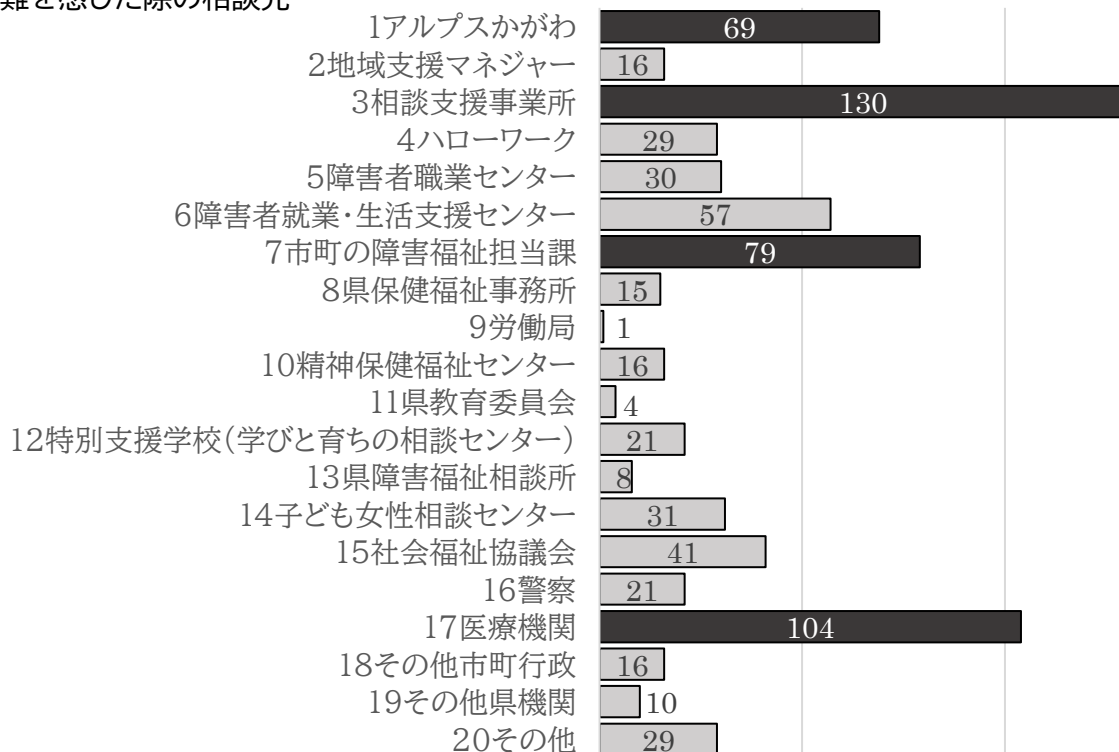
困難ケースへの対策

N=215



- 1 機関内でのケース会議等
- 2 外部機関に相談
- ▣ 3 両方

困難を感じた際の相談先



その他の対策(自由記述)

- ・家族からの聴取
- ・多角的な意見を求めている。あらゆる可能性を想像しながら対応している
- ・スタッフ間で特性やこだわりを理解し共有する
- ・以前に関わりのあった方に相談
- ・ゆっくりと話を聞かすが、意向や表現方法が変わるので、発言された言葉で話をするようにしている
- ・学校カウンセラーに相談
- ・学内タブ局との連携、対象者の保護者を含め連携し、よりよい対応を考える
- ・外部講師
- ・職員の能力向上のための研修参加や資格取得
- ・法人内、関係機関などでの合同学習会にて、事例を取り上げ検討会を行った
- ・保護者との情報交換
- ・職員の理解力とスキルアップ
- ・A型なので基本的に意思疎通が取れる方。傾聴と対話を重ね、潜在的なニーズを把握したうえで本人にストレスや自分のこだわりと向き合っていただき、共にそれについての受け流し方を考え、その都度の対応を伴走的に行うことで解決はしている
- ・落ち着いて作業するようにその都度に伝える
- ・かかりつけ医(投薬などについて)に相談し、薬で調整、構造化など
- ・事業所職員と発達障害の支援について話し合う(職員会議)を繰り返す
- ・本人が職員に伝えたいことやその日に言えなかったことをノートに書いてもらう(作業での困りごとなど些細なことでも書くようにしている)
- ・法人役員に相談支援専門員がいるので、ケースの相談ができる
- ・法務少年支援センター
- ・当人なりのコミュニケーションで最低限のやりとりを行っている
- ・職員の障がい理解とスキルアップ
- ・専門家からスーパーバイズを受ける
- ・物忘れが多いため、メモを渡す等声かけを行う
- ・家族との情報共有
- ・保佐人さんに相談している
- ・発達障害の理解を深めるため研修会にさんかしている
- ・自閉症協会や各障害のラボ等
- ・香川野宿者支援の会

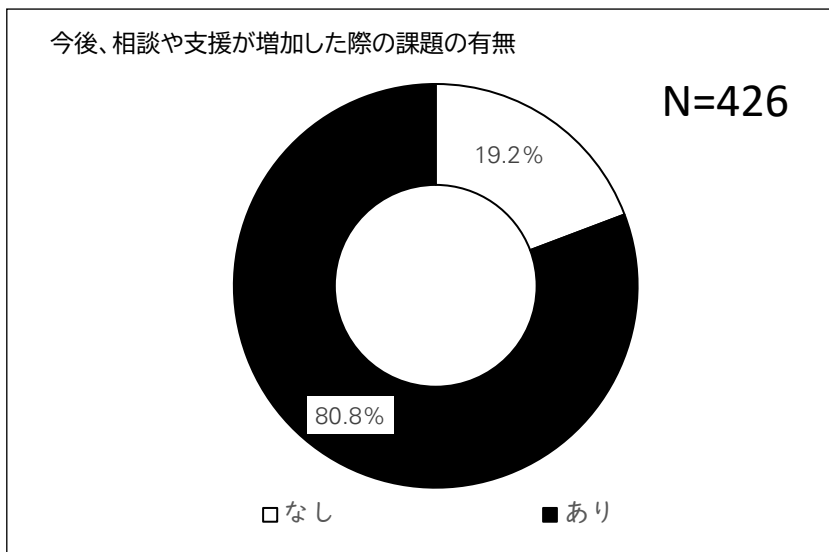
本人や家族からの相談内容(上位3位を抽出)

- 相談内容として非常に多かった項目
- 相談内容として多かった項目
- 相談内容としてやや多かった項目

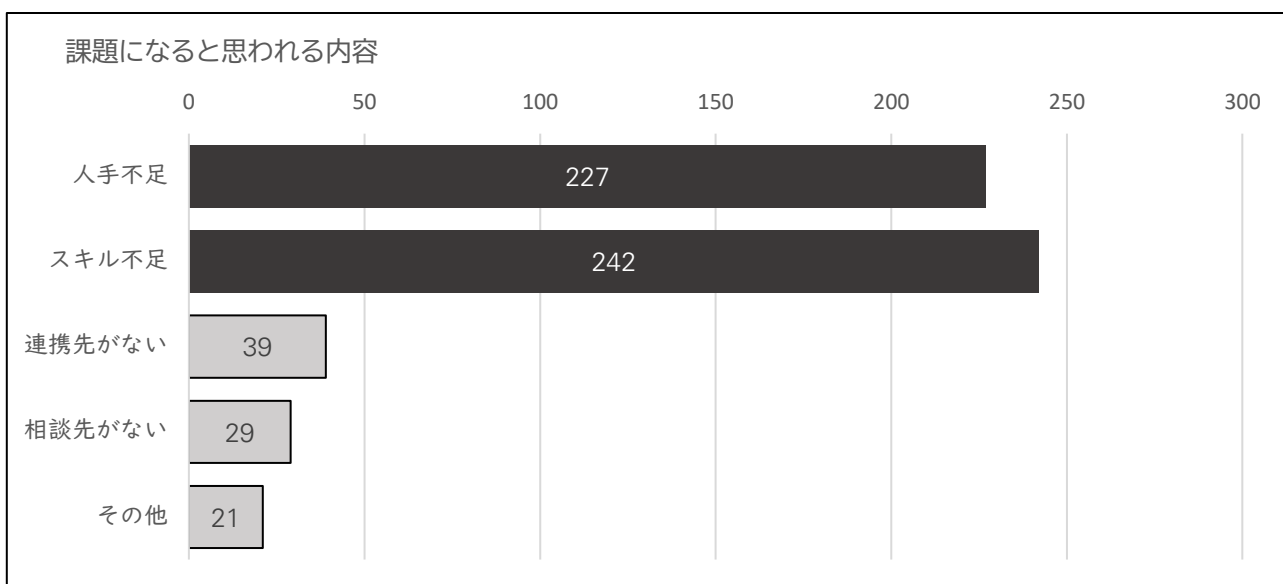
	家庭生活	家族関係	医療	学校生活	進路	制度	サービス	障害者雇用	一般雇用	困難事例	特性
市町障害福祉担当課	■	■							■	■	■
労働					■	■	■	■	■		■
就労	■				■	■	■	■	■		■
相談(基幹・委託)	■						■			■	■
県機関	■	■			■					■	■
児相・家庭	■	■	■								
司法相談	■	■		■	■	■	■	■	■		
社協	■	■			■			■			
相談(指定)						■	■				■
障害サービス提供事業所	■						■				■
児童福祉入所	■	■		■	■			■			■
生活保護	■	■							■		■
高齢	■	■									
矯正					■	■			■	■	
警察	■	■			■			■	■		
国(司法)	■										■

全体的には「家庭生活」が多く、次いで「家族関係」「特性への対応」が上位となっている。そのほかは機関によってバラツキがある。なお、「障害者雇用」や「一般雇用」に関する相談が労働機関や就労支援機関だけではなく、警察や児童福祉入所施設等においても多いことから、その機関の本来の役割以外の相談があることがわかる。

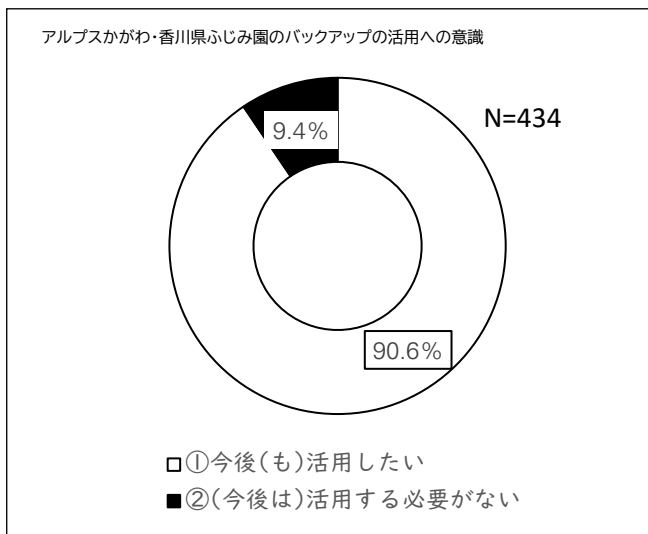
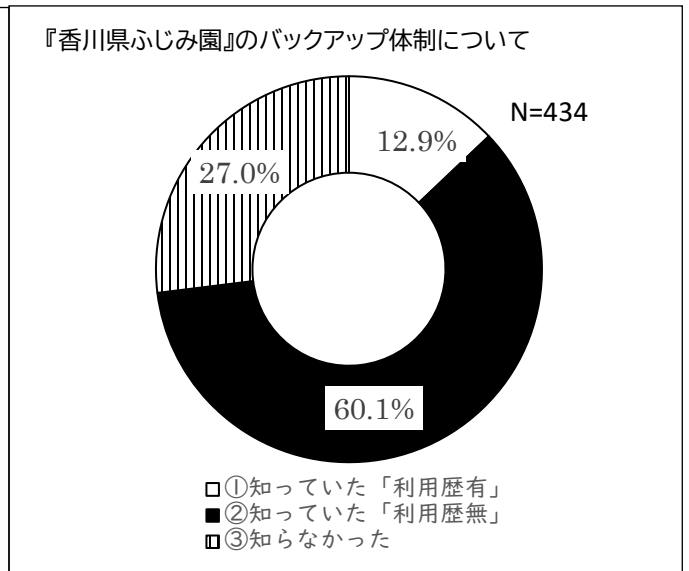
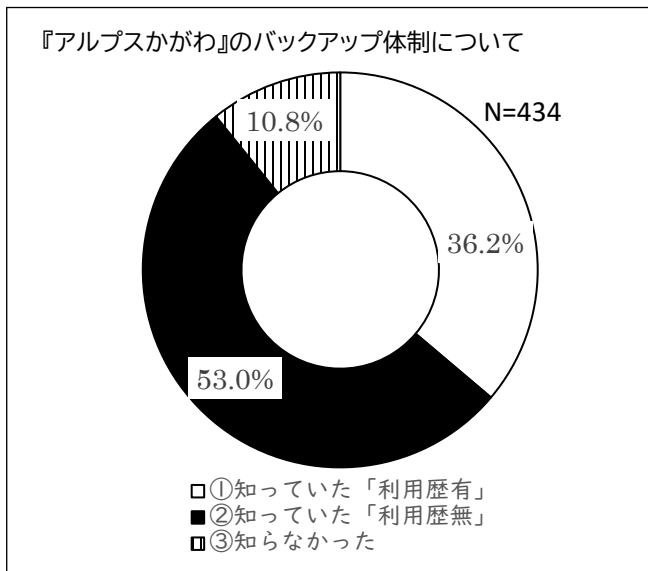
今後、発達障害に関する相談や支援が増加した場合に想定される機関の課題



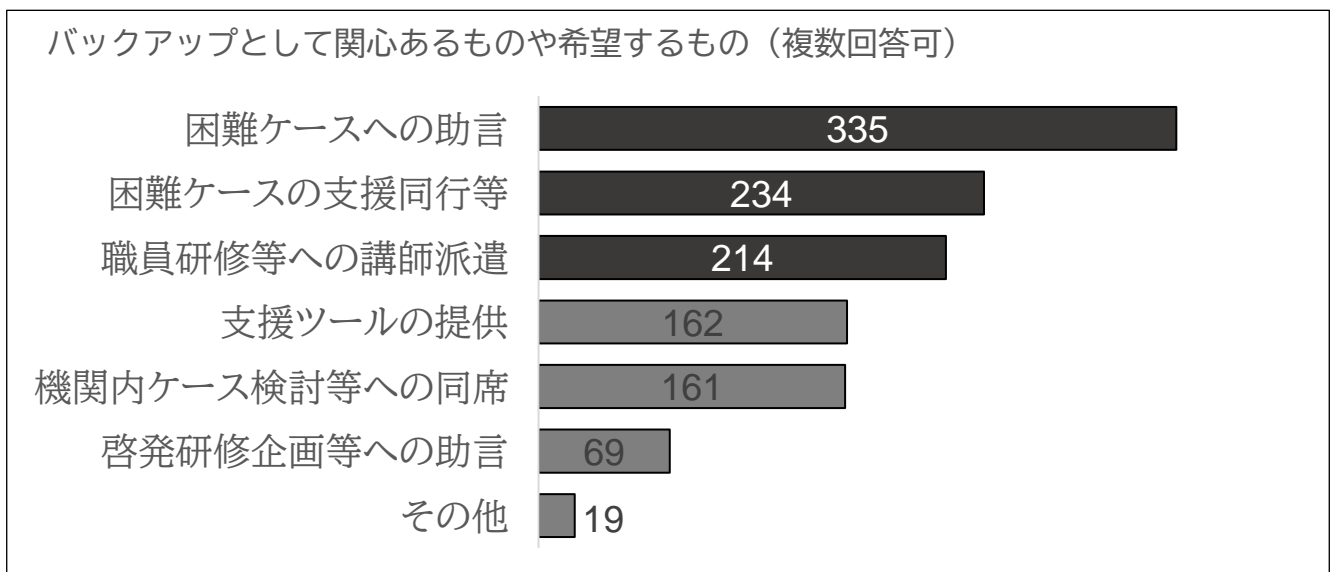
支援実績がある機関の内、86.2%が対応に苦慮したことがあると回答した。課題となる内容については「人手不足」「スキル不足」が主たる内容である。



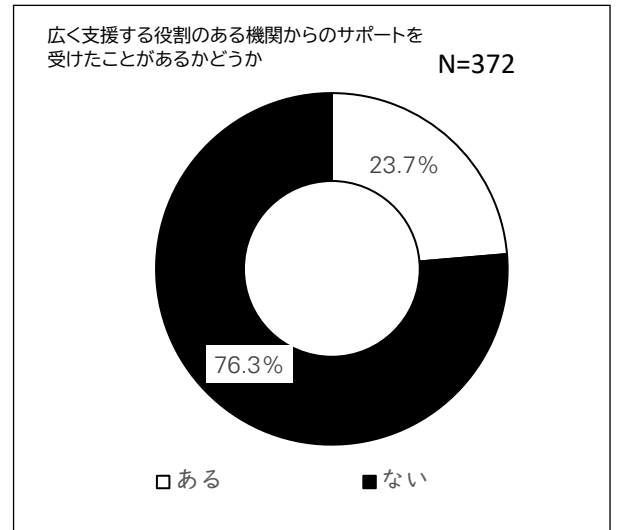
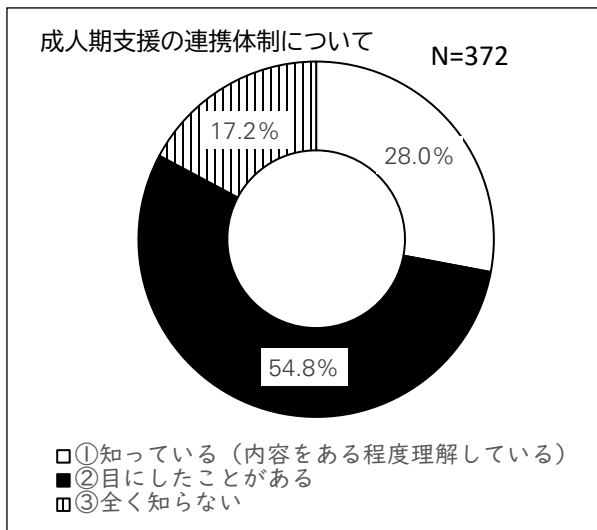
『アルプスかがわ』『香川県ふじみ園』のバックアップについて



『アルプスかがわ』(89.2%)『香川県ふじみ園』(73.0%)が実施しているバックアップ体制について知っている機関のうち、半数以上は利用歴がないとの回答を得た。調査に回答した機関の内、9割程度が、今後(も)利用したいと考えている結果であった。バックアップの内容としては、困難ケースへの助言や本人支援、支援同行に続いて、講師派遣による職員研修の実施が多かった。また、支援ツールの提供や機関内ケース検討等への同席への希望も比較的高い結果となった。

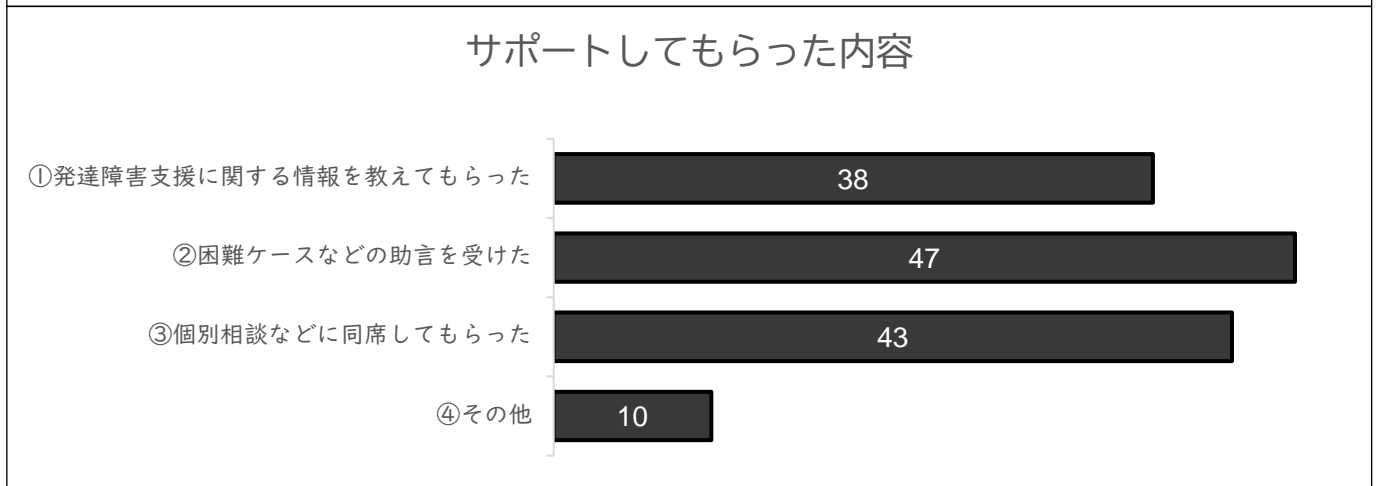
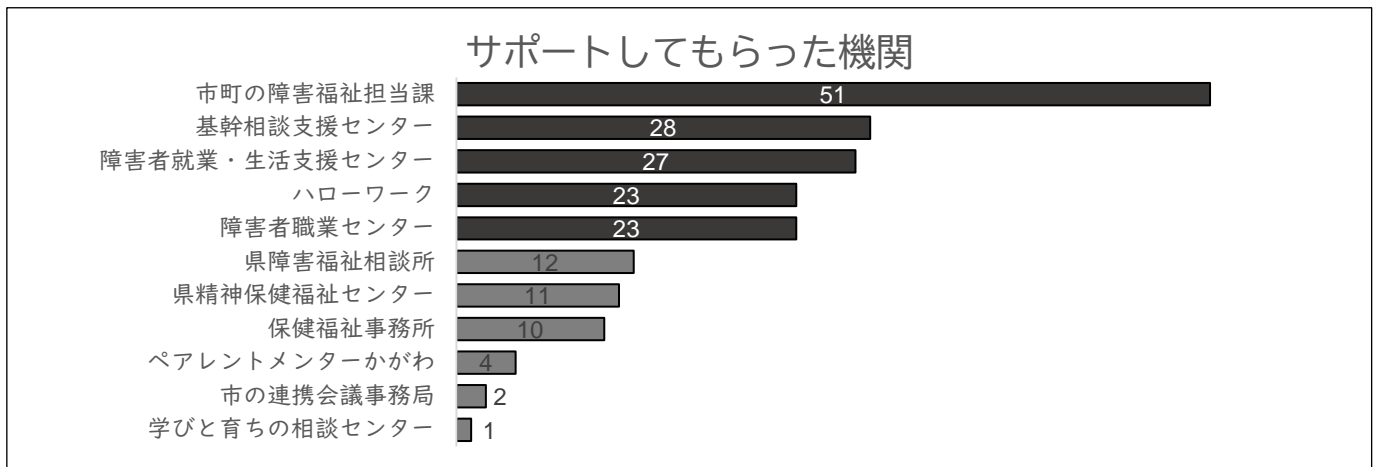


成人期支援体制に関する内容



成人期支援体制(連携図)については82.8%が「知っている」または「目にしたことがある」と回答。

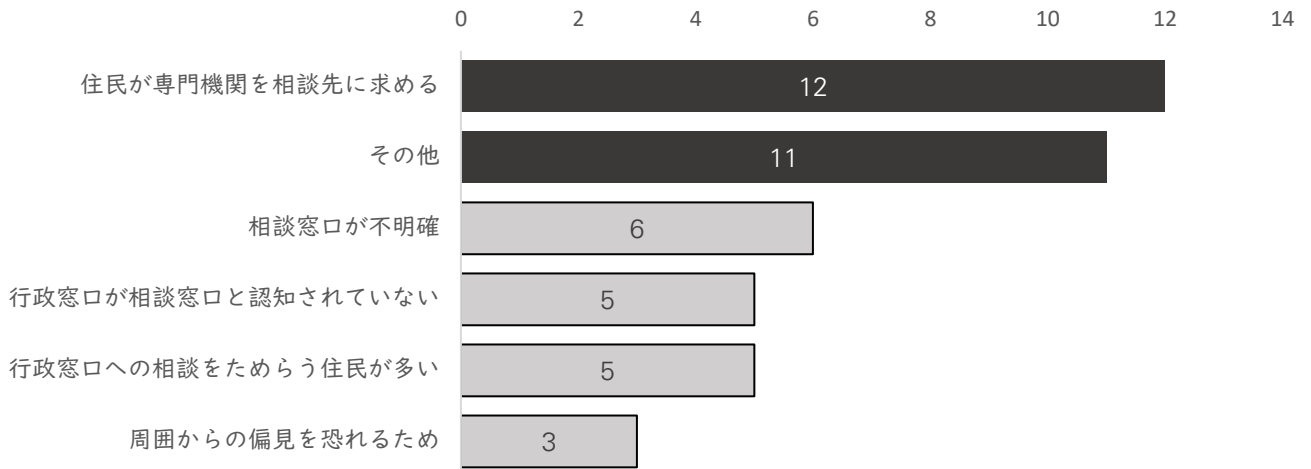
広く支援する役割の機関からのサポートを受けたことがあると回答した機関は23.7%であり、サポートを受けたことがない機関が76%程度と、知っているものの、サポートを受けたことがない状況であった。



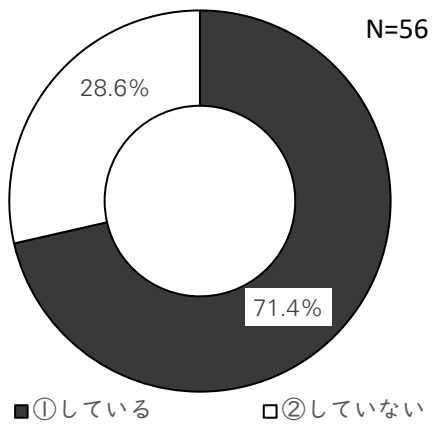
サポートを受けたことがあると回答した機関の内、一番サポートしてもらった機関として多く回答した機関は市町の障害福祉担当課や基幹相談支援センターであり、続いて障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、障害者職業センターと続いており、支援体制図の中核となる機関のサポートを活用している機関が多かった。

支援体制において中心的な役割を担う機関への質問(市町障害福祉担当課、ハローワーク等)

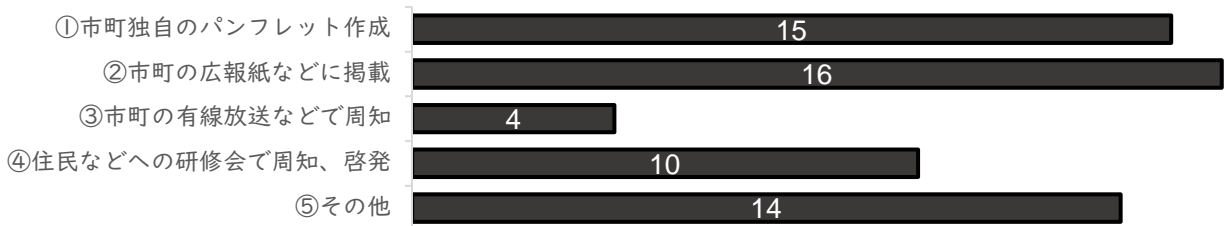
身近な相談窓口である貴機関への相談件数が非常に少ない理由(複数回答可)



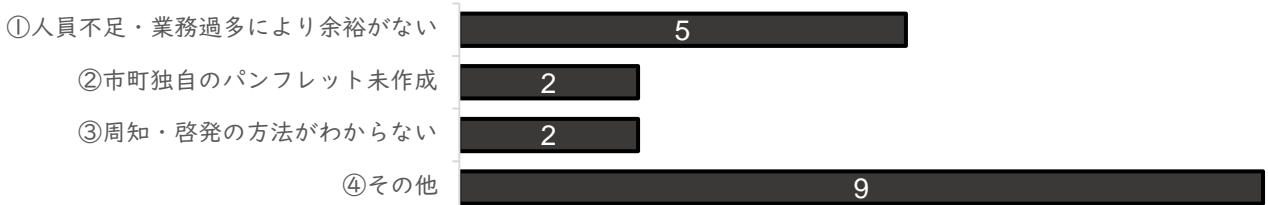
相談窓口の周知・啓発の実施



周知、啓発の方法(複数回答可)

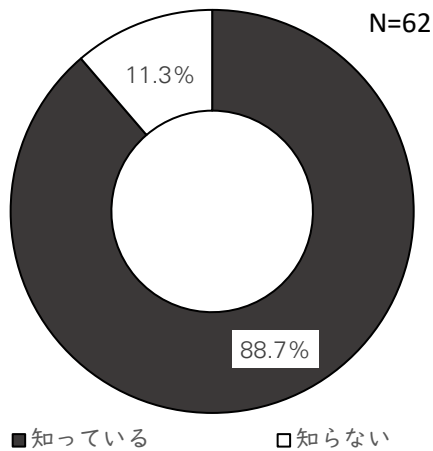


周知、啓発を行っていない理由(複数回答可)

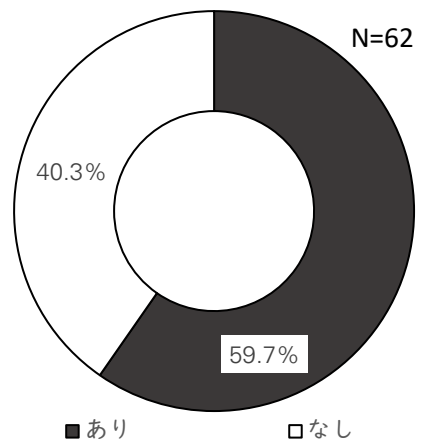


広く支援する役割のある機関への質問事項

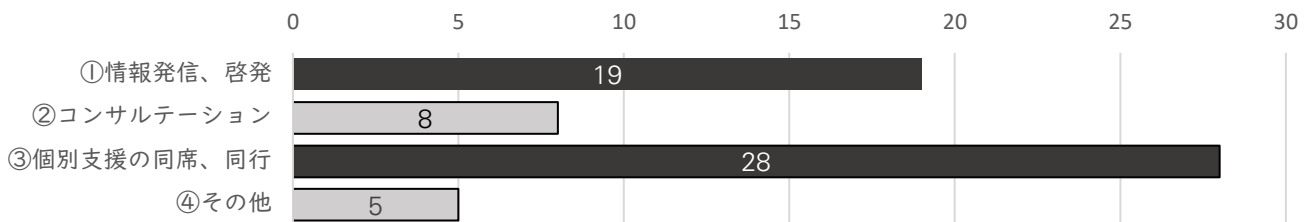
広く支援する役割を担う機関としての意識



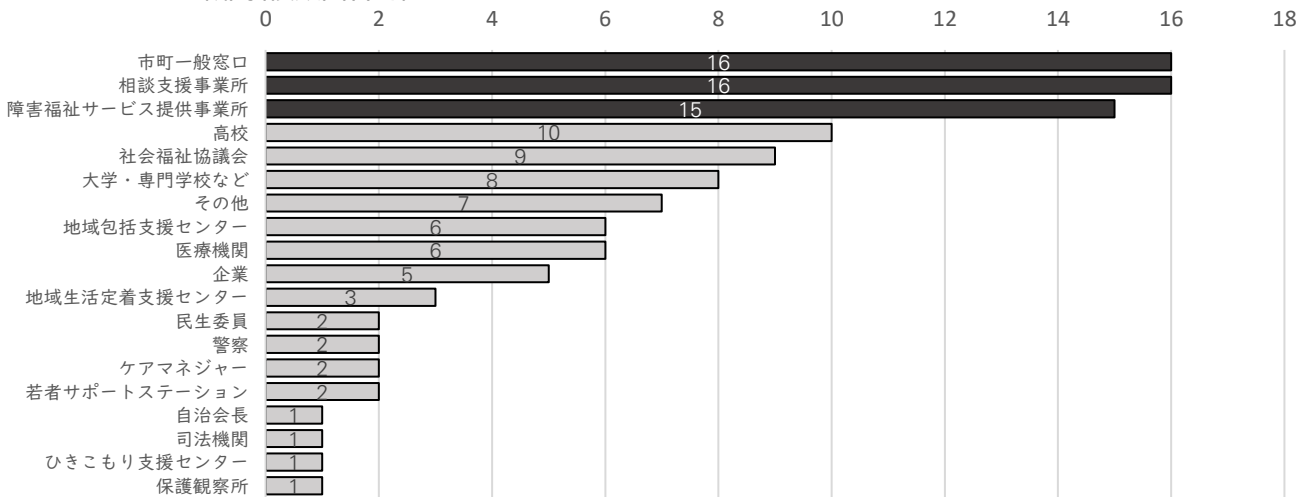
情報発信、コンサル、支援同行等のサポート実施



サポートの内容(複数回答可)

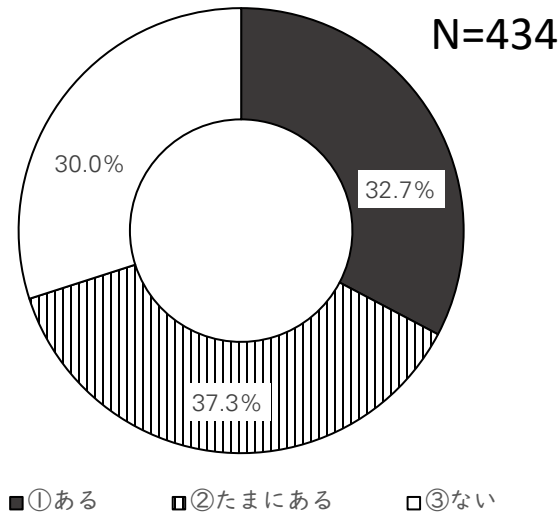


サポートした機関(複数回答可)

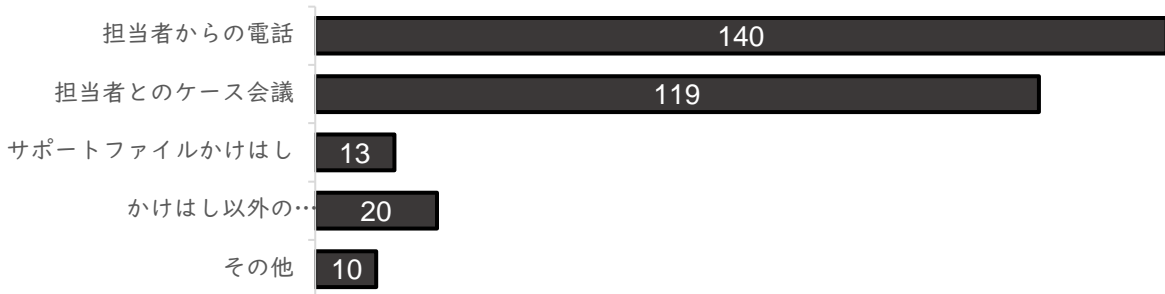


他機関からの引継ぎの状況

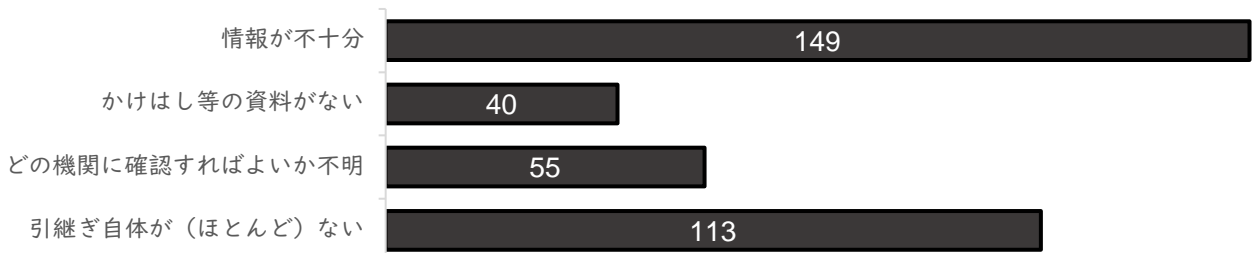
過去の支援状況など、関係機関などからの引継ぎ



過去の支援状況に関する関係機関からの引継ぎ方法



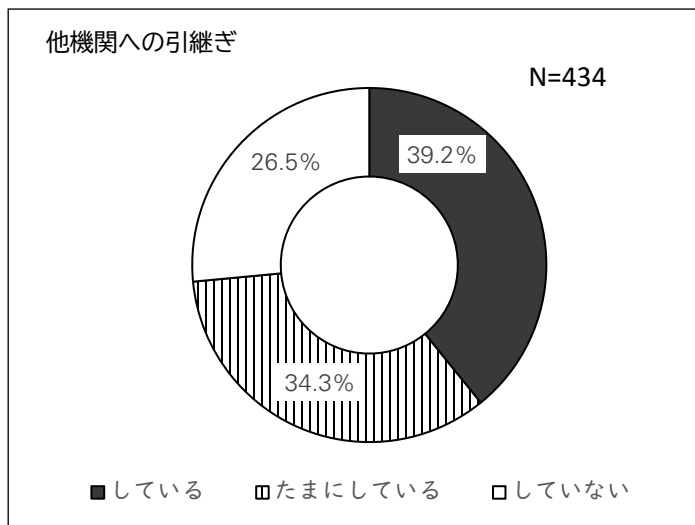
貴機関への情報引継ぎにおける課題



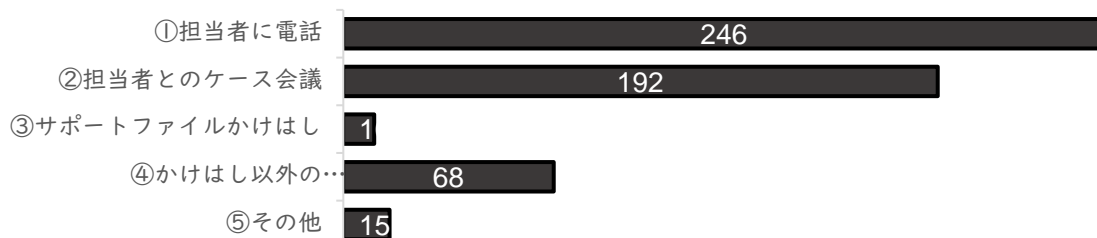
他機関からの引継ぎ状況については、7割が「ある」「たまにある」状況であると回答。また引継ぎ方法は、担当者からの電話やケース会議が多く、かけはしが活用されていない状況である。

引継ぎにおける課題については、情報が不十分、引継ぎ自体が殆んどない等、必要な情報が引き継がれていないと感じている機関が非常に多い状況であった。

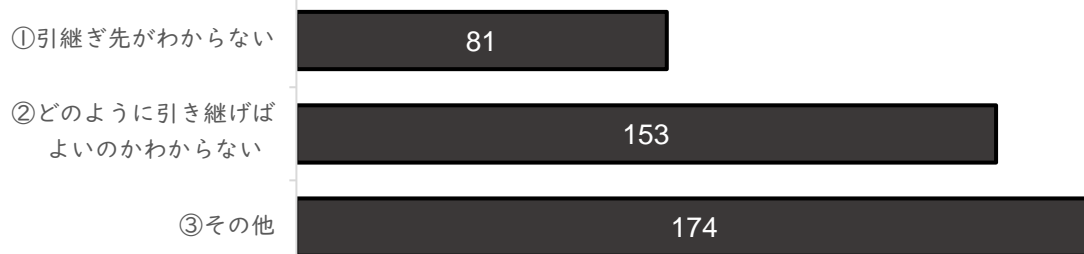
他機関への引継ぎに関する事



貴機関から引き継ぐ際の方法（複数回答可）



貴機関から他機関への引継ぎにおける課題（複数回答可）

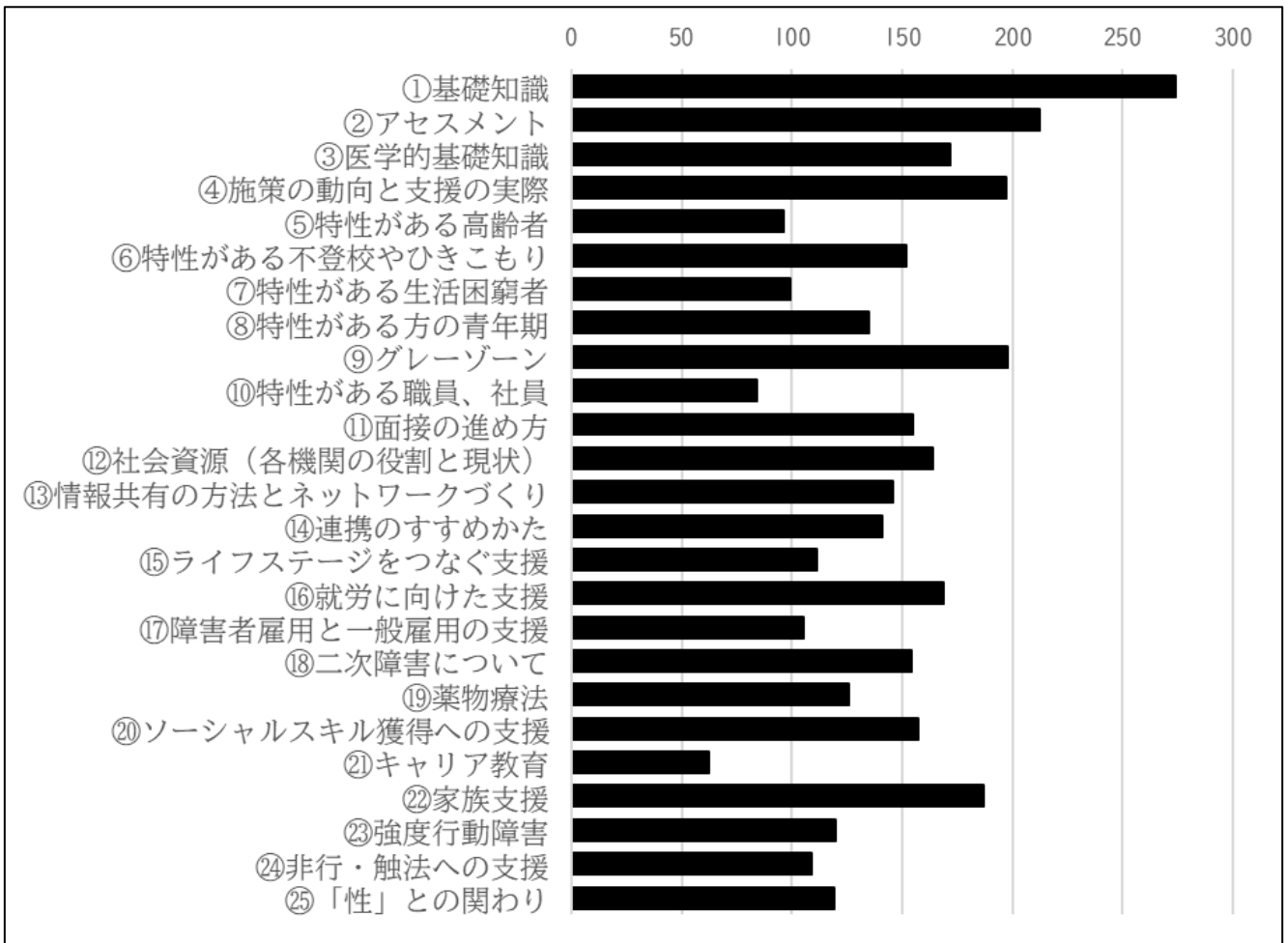


他機関に引継ぎを「している」「たまにしている」と回答した機関は全体の73.5%であった。引継ぎ方穂は、担当者に電話、ケース会議を多く活用していた。

また、引き継ぐ際の課題として「その他」と回答した機関が多くみられたものの、その詳細は今調査では不明である。

希望する研修の内容(複数回答可)

全体



業種別

	①基礎知識	②アセスメント	③医学的基礎知識	④施策の動向と支援の実際	⑤特性がある高齢者	⑥特性がある不登校やひきこもり	⑦特性がある生活困窮者	⑧特性がある方の青年期	⑨グレーゾーン	⑩特性がある職員、社員	⑪面接の進め方	⑫社会資源（各機関の役割と現状）	⑬情報共有の方法とネットワークづくり	⑭連携のすすめかた	⑮ライフステージをつなぐ支援	⑯就労に向けた支援	⑰障害者雇用と一般雇用の支援	⑱二次障害について	⑲薬物療法	⑳ソーシャルスキル獲得への支援	㉑キャリア教育	㉒家族支援	㉓強度行動障害	㉔非行・触法への支援	㉕「性」との関わり	
A 市町障害福祉担当課	15	9	9	6	6	8	10	7	3	7	3	9	6	7	9	5	5	4	5	6	9	3	8	5	7	5
B 労働	9	7	5	3	4	1	2	3	3	6	4	5	2	2	3	1	6	6	2	1	2	1	3	0	0	0
C 就労支援機関	5	2	2	3	3	1	0	3	0	3	0	3	2	2	3	3	2	2	4	4	4	1	5	0	4	2
D 基幹・委託相談支援	27	18	17	13	14	7	17	10	6	12	7	14	20	11	10	11	12	9	11	10	15	4	19	12	16	13
E 県立先機関（精神等）	8	6	7	5	6	6	7	6	4	5	0	5	6	5	4	4	4	5	6	5	5	4	6	4	4	3
F 児相・女性相談	15	9	10	9	8	2	13	7	8	12	1	10	9	4	3	6	5	3	8	5	8	2	10	4	6	7
G 司法相談機関	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	1	2	1
H 社会福祉協議会	17	12	7	6	6	8	8	9	7	8	5	5	10	8	5	4	8	4	5	3	4	1	8	2	3	2
I 指定相談支援事業所	26	15	14	12	15	8	13	7	7	10	6	13	17	13	12	8	11	7	11	10	12	6	15	13	10	13
J 障害サービス提供事業所	194	134	97	81	84	31	35	21	61	81	48	49	57	56	56	47	68	43	70	65	66	25	69	71	39	51
K 児童福祉施設（入所）	8	3	4	1	2	0	2	0	2	6	1	2	1	2	1	4	1	1	1	1	4	0	2	1	2	7
L 教育	51	27	22	14	23	0	32	7	23	32	3	13	11	11	13	9	29	11	15	5	19	10	17	2	6	11
M 生活保護	11	5	2	2	6	2	3	4	1	3	1	7	2	6	4	1	8	4	0	0	1	1	5	0	0	0
N 地域包括支援センター	14	7	6	6	7	13	2	7	2	5	2	9	11	7	7	4	2	2	8	7	4	0	9	1	2	1
O 矯正施設	2	2	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	1	0	1	0	2	1	1	0	2	0	0	0
P 警察	16	8	3	4	5	3	3	2	4	1	1	5	3	6	5	0	0	0	1	0	0	0	6	2	5	1
Q 国機関	3	3	2	1	3	2	1	2	2	1	0	1	2	2	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	2	1
R 企業	8	6	3	3	4	2	2	2	0	3	0	2	1	2	1	1	3	2	2	1	1	2	1	1	1	1

I 結果

①『市町支援体制』においては、前回調査よりも実人数は増加。しかしながら、市町障害福祉担当課、基幹相談支援センター、委託相談支援事業所のいずれにおいても、5割以上の機関が支援実人数10名以下と回答しており、「身近な相談窓口」として十分に機能しているとは言えない。発達障害に関する“困り事”を潜在的に抱える住民を十分拾い出していくためには、何らかの工夫が必要と思われる。

市町と相談支援事業所の両機関においては、いずれも7割～9割が対応に苦慮した点があると回答。対応が難しいと感じた内容で共通する困り感としては「相手の理解度のつかみにくさ」であった。また、市町の特徴としては「ニーズのつかみにくさ」「相談の長時間化」に困りごとを感じる事が多く、面接の進め方等のスキルが課題であると考えられる。一方、相談機関の特徴としては「家族への対応」「規範意識の乏しさ/触法行為」に難しさを感じていた。“行政”“相談機関”いずれにおいても「意思疎通の取りづらさ」「相談の長時間化」「こだわりの強さ」「家族への対応」に対する難しさを感じる事が多い結果となった。

そういった困り事が生じた場合、市町支援体制を担う市町、相談支援事業所が双方向に相談しているという回答は多く、また医療機関を相談先として活用しているという回答も多く、窓口だけで抱え込んでいる状況ではないことが分かる。

本人や家族からの相談内容として、相談支援事業所では「障害福祉サービスに関すること」が圧倒的に多く、家庭生活や家族関係、困難事例等が挙げられている。一方、市町では「家庭生活に関すること」が最も多く、「仕事に関すること（一般雇用）」、「家族関係に関すること」が次いで多い結果となっている。「障害者雇用」「困難事例」「特性に関する事」なども多く、市町には従来の「障害福祉」の枠組みだけではなく、様々な相談が寄せられていた。

②上記の就労に関する相談が市町に多く寄せられており、今後、市町と就労支援・労働機関において、双方向の繋がりをより強化することが必要であると考えられる。

③障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターにおいては、前回調査同様、①と比較しても支援実人数が多い結果となっている。ハローワークについては、前回調査では実人数0名と回答した所管もあったが、今回の調査ではいずれも支援実績があると回答している。

就労の中心を担う上記3機関全てが共通して対応に苦慮した内容が「意思疎通の取りづらさ」「こだわりの強さ」であった。ハローワークや、障害者就業・生活支援センターにおいては「相談の長時間化」が挙げられている。困りごとが生じた際、就労支援の中心を担う機関同士が双方向に相談している状況であった。

④広く支援する役割がある市町支援体制、就労支援の中核機関が地域の機関や支援者へのサポートを実施している割合は機関種別によって差があり、各種別の5割程度から全機関で実施歴がある等、同じ種別の中でも差があった。また、広く支援する役割を持つ機関がサポートした対象機関として、どの種別においても市町一般窓口、相談支援事業所が多い等の偏りがあり、今後は、困りごとを抱えながらも地域に潜在化している発達障害者の支援を充実させるため、民生委員や社会福祉協議会等、身近な地域で困りごとをキャッチしているであろう機関や役割を持つ支援者にも更なるサポートの強化に向けた取り組みが必要であると考えられる。

⑤『アルプスかがわ』『香川県ふじみ園』によるバックアップを希望すると回答した割合は9割であり、希望する内容として5割以上の機関が困難ケースの助言や支援同行等、個別支援に関するバックアップであり、5割弱の機関は職員研修等への講師派遣を希望していることが分かった。また、4割弱の機関で支援ツールの提供やケース検討への同席を希望していた。

市町支援体制や、就労支援の中核機関を含め、機関における困り事の相談先として、『アルプスかがわ』『地域支援マネジャー』を活用していると回答した機関が非常に多いことから、地域の支援者や機関への更なるバックアップが求められているといえる。

⑥連携に必要な「情報の引継ぎ」においては、情報が引き継がれる際、「情報が不十分」「引継ぎ自体がほとんどない」ことを7割を超える機関が課題として感じている状況であった。また、情報を引き継ぐ際の課題として、「どのように引き継げばよいかわからない」が多かった。引継ぎの方法としては「電話」「ケース会議」の開催が多い一方、引継ぎにおけるツールの活用が非常に少なかった。

II 課題と今後の取り組み

調査全体としては以下の状況と課題が整理された。

1. 支援実人数が予想よりも少ない。

→8年前の調査と比べて支援数は増えていると言える。しかし予想される発達障害者の人数と比較すると支援の実人数は十分とは言えない。支援に至っていない要支援者がかなり潜在化している。

→民生委員、社会福祉協議会等がキャッチしている困り感を抱える住民の生活等の状況に至る背景に発達障害特性があるものの、“気づき”に繋がっていないと考えられるため、支援者や関係機関に向けた発達障害者の啓発が必要だ。

→各市町において、住民への普及啓発に取り組んできた経緯はあるが、「身近な相談窓口」として活用されておらず、更なる住民への啓発に関する市町へのバックアップが必要だ。アルプスかがわで作成したリーフレットの活用等、住民の相談を受ける際に利用できるツールを提供／共同制作することを提案している。

2. 情報の引継ぎにおいて①ツールの活用が少なく、また②「情報が不十分」なまま引き継がれ、③「どのように引き継げばよいかわからない」状況がある。

→連携に必要な“情報の引継ぎ”に対するツールの活用の促進や、社会資源に関する研修、連携に関する好事例の共有等が必要である。

3. 市町をはじめ、各機関には幅広い相談内容が寄せられているものの、発達障害特性を踏まえた面接相談等のスキルが十分ではなく、対応に苦慮している現状がある。

また、地域の支援の中核となる「広く支援する役割のある機関」には、機関支援に関するスキルも必要であるが、まずは個別支援における対応の困難さへの対応力が求められる。

→テーマを絞った研修（職種別研修の実施や、従来の基礎研修のカリキュラムの再検討）等によるスキルアップに向けた対応が必要である。

→対応が難しいと感じるケースへのバックアップ強化が必要である。

4. 「広く支援する役割のある機関」である「市町支援体制」と「就労支援の中核機関」のつながりが十分ではない。

→双方のつながりを強化するためのバックアップが必要である。